

わたしの主、わたしの神よ

ヨハネによる福音書 20 : 24 - 29



司祭 ヨハネ 井田 泉

復活節第2主日
2025年4月27日

京都聖三一教会にて

「十二人の一人でディディモと呼ばれるトマス」 ヨハネ 20:24

今日の福音書に登場したイエスの弟子のトマスは、一般に「復活の主を疑ったトマス」「疑い深いトマス」というイメージを持たれているかもしれません。けれども今日は、トマスのことをもう少し丁寧に見つめてみることにしましょう。

まずトマスは、イエスが多くの弟子たちのうちから祈りをもって選ばれた 12 弟子の一人でした。イエスはトマスを身近に置き、ご自分の使命である神の国の働きを一緒にするようにと、トマスを育てていかれました。トマスには、イエスの祈りと愛が注がれていました。トマスもまた、イエスを信頼して従い続けたのです。

ヨハネ福音書第 11 章にこんな話が記されています。イエスが愛しておられたラザロが重い病で死に瀕しているということが伝えられました。しばらくしてイエスは「もう一度、ユダヤに行こう」と言われました。ラザロを見舞う、と言われたのです。弟子たちは反対しました。なぜなら、そこはとても危険な場所だったからです。弟子たちは言いました。

「ラビ、ユダヤ人たちがついこの間もあなたを石で打ち殺そうとしたのに、またそこへ行かれるのですか」 11:8

しかしイエスはこう言われました。

「わたしたちの友ラザロが眠っている。しかし、わたしは彼

を起こしに行く」11:11

これを聞いたとき、トマスは感動しました。このイエスという方は、自分の命を危険にさらしてでもラザロを助けようとするのだ。このような方だからこそ、自分はイエスを信じてここまで来たのだ。トマスは仲間の弟子たちにこう言いました。

「わたしたちも行って、一緒に死のうではないか」11:16

イエスと一緒に死んでよい。この方と一緒に死のう。彼はそう本気で思ったのです。このことだけで、トマスがどんなにイエスを愛しイエスを信頼していたかがわかります。

さて今日の福音書です。

「十二人の一人でディディモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。」20:24

日曜日の夕方、復活されたイエスが弟子たちのところに来られたとき、トマスはそこにいなかったのです。

「そこで、ほかの弟子たちが、『わたしたちは主を見た』と言うと、トマスは言った。『あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。』」20:25

ほかの弟子たちは主イエスを見たと言うのですが、トマスは拒絶しました。そんなのは幻想幻覚に違いない。一時の興奮などすぐ冷めてしまう。絶対に信じない。

けれども彼の心には、同時に深い悲しみがあつたかもしれ
ません。イエスがもし、ほんとうに復活して弟子たちのところ
に来られたなら、なぜ自分には出会ってくださらなかったのか。
自分だけが見捨てられたような孤独。イエスを愛していたがゆ
えに、彼の心は耐えがたく苦しかったのではないでしょう

しかしこの後が大切です。このトマスを目指して、イエスは
来られるのです。

「さて八日の後、弟子たちはまた家の中におり、トマスも一
緒にいた。戸にはみな鍵がかけてあつたのに、イエスが来て
真ん中に立ち、『あなたがたに平和があるように』と言われ
た。」 20:26-27

イエスは来て、真ん中に立って、「あなたがたに平和があるよ
うに」と言われました。それは皆に言われたのですが、とりわ
けトマスに向かって言われたに違いありません。一番平和を必
要としていたのはトマスです。

「あなたがたに、あなたに平和があるように」

この呼びかけに、こわばっていたトマスの心が少しずつ潤さ
れていきます。イエスが生きておられる。ここにおられる。

「それから、トマスに言われた。『あなたの指をここに当てて、
わたしの手を見なさい。また、あなたの手を伸ばし、わたし
のわき腹に入れなさい』」 20:27

トマスは、差し出されたイエスの手を見ます。その手の傷跡を見ます。わき腹の傷跡を見ます。ほんとうにイエス！ もう会えないと思っていたイエス！ もはや自分の手をイエスのわき腹に入れたりする必要はありません。ただうれしかった。イエスは確かに生きてここにおられる。しかも自分に思いを注いでくださる。トマスは両手を伸ばしてイエスにすがったかもしれません。いやむしろ、イエスのほうが彼を抱き寄せてくださったかもしれません。

イエスは続けてトマスに言われました。

「信じない者ではなく、信じる者になりなさい」 20:27

これは信じない者を非難する言葉ではありません。トマスを愛し招く言葉です。信じたいのに信じられず、迷い苦しんできた者をイエスは招き、引き寄せられるのです。トマスは今や信じて、喜びに満たされます。トマスのうちに大きな転換が起っています。

トマスはイエスに向かって言いました。

「わたしの主、わたしの神よ」 20:28

トマスの真心からの叫び、イエスに対する信仰告白です。

「わたしの主、わたしの神よ」

イエスはトマスに言われます。

「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸

いである。」 20:29

この言葉をいかめしい命令と受け取らないようにしましょう。
イエスはトマスに「見る」ことを許されたのですから。

**「わたしは復活して、たとえ見えなくても生きてあなたと共に
にいるのだから、心配せずに信じていなさい。わたしを信じ
ることの幸せの中にいなさい。」**

これはわたしたちに対しても、イエスが呼びかけられる言葉
です。

トマスは特別の苦しみを味わいました。しかし彼は、その悲
しみと苦しみを経験したからこそ、与えられる祝福があります。
このような彼にしかできない働きが前に広がっています。

言い伝えによれば、トマスは後に遠くインドにまで行ってイ
エスのことを広めたと言われます。そしてトマスを創立者と信
じる「マル・トマ教会」が 2000 年を経た現在も存在します。信
徒約 100 万人。聖公会との間に深い交流を持っています。

ところで今日の箇所から、もう一つ大切なことに触れておき
ましょう。トマスはわたしたちのために、信仰の一つの大きな
扉を開いてくれたのです。何かというと、イエスに向かって彼
が呼びかけた「**わたしの主、わたしの神**」という言葉です。

ただ皆の神、人類全体の神、というだけではなく（もちろん
そのことは非常に大切なのですが）、イエスは「わたしの主、わ

たしの神」。イエスは、わたしのことをよく知っていてくださるわたしの主。わたしを愛してくださるわたしの神。そのゆえにわたしはこの方に自分を打ち明けてすすることができるのです。

トマスは復活の主イエスを「わたしの主、わたしの神」と呼んだ。それでわたしたちもこのイエスを「わたしの主、わたしの神」と呼ぶことができるのです。

祈ります。

復活の主イエスさま、あなたが迷い苦しむトマスを愛してご自身を示し、彼に喜びを与えてくださったように、わたしたちにもご自身を示して喜びを与えてください。わたしたちの不安と葛藤と不信仰を癒やし、復活の愛の命をもって祝福し力づけてください。アーメン